

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●川田将雅騎手がJRA通算1500勝を達成

9月6日(日)の2回小倉8日・第5レースではアドマイヤザーゲが1着となり、同馬に騎乗した川田将雅騎手(栗東・フリー)は、史上17人目、現役では8人目となるJRA通算1500勝(1万412戦目)を達成しました。

●杉山晴紀調教師がJRA通算100勝を達成

9月6日(日)の2回小倉8日・第4レースではエトヴァスが1着となり、同馬を管理する杉山晴紀調教師(栗東)は、現役150人目となるJRA通算100勝(延べ1155頭目)を達成しました。

●夏競馬終了、各場のリーディングが決まる

9月6日(日)をもって3回新潟、2回小倉、2回札幌が終了し、今年の夏競馬が幕を閉じました。新潟では、2回新潟で9勝、3回新潟で6勝、計15勝をあげた福永祐一騎手(栗東・フリー)が、2011年以来9年ぶり2回目となる夏の新潟リーディングジョッキーとなりました。小倉では2回小倉で13勝をあげた川田将雅騎手(栗東・フリー)が、4年ぶり5回目となる夏の小倉リーディングジョッキーに輝いています。札幌では、1回札幌で14勝、2回札幌で12勝の計26勝をあげたクリストフルメール騎手(栗東・フリー)が、2年連続4回目となる札幌リーディングジョッキーの座を獲得しました。

●9月21日に「JRAアニバーサリー」を実施

9月21日(祝・月)の4回中山5日と2回中京5日には、昨年に引き続き『JRAアニバーサリー』が実施されることとなりました。当日は「JRAスーパープレミアム」として全レース・全式別の勝馬投票券の払戻率が80%に設定されるほか、10年前・20年前の年度代表馬の馬名を冠した「テイエムオペラオーC」・「ブエナビスタC」が施行されます。またスペシャルサイト「みんなの競馬アニバーサリー」では、全国の競馬ファンから寄せられた競馬にまつわる写真とメッセージ、競馬を愛する著名人による動画メッセージ、JRAの歴史を振り返る年表などが紹介されています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●霧島賞(佐賀)はJRAの鹿児島産馬テイエムノサッタ

九州産馬限定の霧島賞(3歳以上、9月8日、佐賀、1400^米、JRA所属馬は2勝クラス)は、2番手から直線入口で先頭に立った5番人気のテイエムノサッタ(田中健騎手、牝4歳、父パイロ)が、イロゴトシの追撃をハナ差退けて優勝しています。

●すずらん賞(札幌)で北海道のクローリスノキセキが2着に健闘

すずらん賞(2歳オープン、9月6日、札幌、芝1200^米)には6頭の北海道所属馬が出走、その中で最上位の8番人気だったクローリスノキセキ(牝、父キンシャサノキセキ)は、中団から直線では外を通過して鋭く伸びたものの、惜しくもハナ差及ばず2着。15番人気のブルースウェードも、2着とはハナ十クビ差の4着と好走しました。

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド佐賀の結果

2020ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド佐賀は9月8日に実施され、第1戦は塚本雄大騎手(高知)、第2戦は金山昇馬騎手(佐賀)が勝利を収めました。

●ビギナーズC(盛岡)はリュウノシンゲン【各地の主要2歳重賞】

ビギナーズC(9月5日、盛岡、1400^米)は、2番手から直線に入って間もなく抜け出した2番人気のリュウノシンゲン(牡、父グランプリボス)が、芝2戦2勝で単勝1.7倍の支持を集めたマツリダステイルを $\frac{3}{4}$ 馬身抑えて重賞初制覇。サッポロクラシックC(9月3日、門別、1700^米)は、3番手から直線で最内を突いた1番人気のラッキードリーム(牡、父シニスターミニスター)がハナ差競り勝っています。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1ケンタッキーダービー～オーセンティックが逃げ切り勝ち

コロナ禍にあって、当初の5月2日から約4か月遅れとなる9月5日に米国ケンタッキー州のチャーチルダウンズ競馬場で行われたG1ケンタッキーダービー(3歳、ダート2000^米)は、スタートで後手を踏んだものの、そこから巻き返してハナに立ったオーセンティック(牡、父イントゥミスターフ)が、G1ベルモントSの勝ち馬テイザローの追い上げを振りきって1馬身 $\frac{1}{4}$ 差で優勝しました。オーセンティックは前走7月のG1ハスケルS(ダート1800^米)に続いてのG1連勝で、重賞は4勝目です。なお、管理するB.バファート調教師はこれでケンタッキーダービー6勝目となり、1930年代から50年代に活躍したB.ジョーンズ調教師の同レース最多勝記録に並びました。手綱を取ったJ.ヴェラスケス騎手は3勝目です。

●G3セプテンバーS～エネイブル、凱旋門賞3勝目へ視界良好

イギリスのケンプトン競馬場で9月5日に行われたG3セプテンバーS(3歳上、オールウェザー2400^米)は出遅れからすぐに立て直して、逃げの手に出たエネイブル(牝6歳、父ナサニエル、J.ゴスデン厩舎)が後続を寄せ付けず7馬身差で快勝。史上初の3勝目を目指す10月4日のG1凱旋門賞(パリロンシャン競馬場、芝2400^米)に向けて弾みをつけました。